

研究主題 「個々の教育的ニーズに応じた自立活動の指導の工夫・改善」

■ 研究の目的

- ・新学習指導要領の視点を踏まえ、児童生徒一人一人の的確な実態把握、指導目標・内容の明確化等、自立活動の指導に関する工夫や改善を研究し、より充実した授業実践へつなぐことができる。

■ 研究の仮説

- ・新学習指導要領の視点を踏まえ、アセスメントに基づいた目標設定をすることで、より児童生徒の実態を踏まえた具体的な指導内容につながり、児童・生徒の学習上・生活上の困難が軽減される。

■ 研究の方法

研究① 適切な目標設定・・・困難の背景要因や特性を見定めて目標を設定する。

**ねらい** これまでの個々の自立活動の経緯を踏まえ、その困難がどんな障害や特性に基づくものなのかを探り、学習上・生活上の困難を改善・克服するための手立てを明確に導き出すために、将来の姿を想定しながら児童生徒一人一人の目標を設定できる。

**方法** 手順シート（結城版）を活用してアセスメントを行う。（長期支援目標とのリンク）

（提案）前担任が作成した手順シート（引き継ぎ資料）を参考に、新年度初めにアセスメントを行う。その中から、学年1名対象児童生徒を取り出し、昨年度同様にケース報告（手順シート、授業計画・実践など）を学部ごとに行う。

研究② 自立活動の授業充実・・・特設された授業の中で、アドバイザーの助言を受けて、授業改善や実践、指導の工夫を行う。

**ねらい** 特設された時間における自立活動の授業について、授業計画・改善・実践ができる。

**方法** 授業研究を行い、アドバイザーからの助言を受けて、研修を深める。

→年2回（6月・10月）本校自立活動アドバイザーとして、茨城大学教育学部准教授の新井英靖先生に来校していただき、授業を参観、放課後に講演をいただく。

（提案）研究授業に関するツール（手順シート・授業シート等）の活用。

学校研究スケジュール（R1）

